



日航機墜落事故から39年！ 安心して働ける職場なくして安全はつくれない！

1985年8月12日、520名の尊い命が奪われた「日航機墜落事故」から39年が経ちました。利用者の命を預かり、目的地まで安全に送り届ける同じ公共交通機関の社会的使命と責務を果たす一員として未曾有の重大事故を風化させてはなりません。

昨今、公共交通機関での

事故やトラブルが相次いでいます。

今年6月、日本航空では、相次ぐトラブルを受けて、国土交通省に原因や背景をまとめた報告書を提出し、「現場では時間などいろんなプレッシャーの中で、仕事をしているが、安全を大前提とした仕事の環境が整っていないかった。リスクマネジメントも十分に機能していなかった」ことが語られました。そして、再発防止策

として「経営陣が継続的に現場の声を把握」「規程類の記載を整理し、明確化」「教育訓練の実施や改善」を挙げています。

「安全」を深く刻む日！

JR東日本も対岸の火事ではない！

JR東日本においても、事故や事象の連鎖が止まらず、経営陣や企業の経営体質が社会から厳しく指弾されています。要員不足の中での事業運営や労働の複務化、経験や専門性を排除する人事施策の弊害等に端を発しています。

落ち着いて専念できる労働環境がなければ、安全をつくり出すことはできません。現場から声をあげ、安全・安心の輸送サービスが提供できる健全な企業経営を構築しよう！